

来週の『売り物』記事はこれ



2013年3月15日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

津波で2度の被災 記憶の風化にあらがう 岩手県 田老一中の「作文」

朝刊 17日（日）



岩手県宮古市田老。東日本大震災では津波が襲いかかり、壊滅的な打撃を受けました。唯一の中学校、田老一中では、東日本大震災2年にあたる今年3月、震災をテーマにした生徒たちの作文が、校長の佐々木力也さんの指導で完成しました。田老の地は80年前の「昭和の三陸海岸大津波」=1933(昭和8)年



でも被災し、田老一中前身の田老尋常高等小の子どもたちも作文を残していました。その経緯は、吉村昭の記録文学「三陸海岸大津波」に詳しく描かれています。当時、作文指導に当たったのが佐々木耕助という青年教師。実は、佐々木校長の遠縁に当たる人物でした。時代を超えた2人の教育者に共通するのは「被災体験を風化させまい」という強い決意です。子どもたちの作文を紹介しつつ、教師、体験者らの話をドキュメンタリータッチに描きます。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

「時代を駆ける」震災特集

福島県南相馬市長 桜井勝延さん

19、22、23日掲載



大震災の被災地、福島県南相馬市は福島第1原発の北10~40kmににあります。原発事故で当初は半径20km圏が警戒区域(12年4月再編)、30km圏が緊急時避難準備区域(11年9月解除)になり、いまでも多くの市民が古里に戻れずにいます。市長の桜井勝延さん(57) =写真=は、地震・津波・原発という幾重の惨禍からの復興の最前線に立ち、インフラ復旧、住宅再建と多くの課題と向き合っています。その活動、思いを描きます。

硬膜下血腫を疑おう くらしナビ生活面 19日（火）

歩くとふらふらする、物忘れが多くなった、疲れやすい——このような症状は加齢のせいと思われがちですが、少し前に軽く頭を打ったからかもしれません。慢性硬膜下血腫という病気の可能性があります。脳が衝撃を受け、出血して脳膜に血液がたまり、脳を圧迫するのです。防ぎ方、症状の見分け方、検査法を専門家に聞きました。



季節の変わり目に効く薬膳料理

くらしナビ食べる面 19日 (火)



天候が変わりやすい春は心や体の不調を訴える人が少なくありません。季節の変わり目に薬膳料理を取り入れると、四季の流れに体が自然に添うことができるようになります。身近な食材を使って、肌のくすみや肩こり、ほてり、吹き出物などの症状を改善できる薬膳料理を紹介します。ナビゲーターは帝国ホテルプラザの漢方薬局「薬石花房 幸福薬局」の幸井俊高さんです。

セレモニーに使える洋服 くらしナビ装う面 21日 (木)

卒業式や謝恩会、入学式など春はセレモニーが多い季節です。華やかな場で、服装マナーをきちんと押さえながらおしゃれを楽しむコツを紹介します。今回はフォーマル度が高いのに着こなして印象が変わる「リトルブラックドレス」と、エレガントでカジュアルダウンもできる襟なしツイードジャケットを取り上げます。



センバツ高校野球が22日に開幕

第85回記念大会 36校が出場



国内に春の訪れを告げる、選抜高校野球大会（毎日新聞社、日本高校野球連盟主催）は22日から13日間、阪神甲子園球場で開かれます。今回は、第85回記念大会。震災復興への思いを込めた「東北絆杯」を設けるなどして、例年より4校多い36校が出場します。中でも、東北からは史上最多の5校が出場し、注目されます。津波の直接的被害を受けた、いわき海星（福島）は同じ「21世紀杯」の遠軽（北海道）と1回戦での顔合わせ。史上初の甲子園3季連続優勝を狙う大阪桐蔭（大阪）は、その勝者と2回戦で当たります。球児たちが織りなすドラマは期間中、紙面で生き生きと伝えます。

東横線・副都心線直通、地上46階の駅ビル…

「迷わない渋谷」になるのか

夕刊特集ワイド 18日 (月)

16日に東急東横線が地中化され、東京メトロ副都心線に乗り入れたのを皮切りに渋谷が大きく変わろうとしている。7年後には駅ビル3棟が建ち、うち1棟は230mにそびえ立つ。もともと宇田川と渋谷川に削られた谷底に駅がある渋谷は「谷底のまち」。だからこそ路地裏が発達し迷い安くなった一方、独特のストリート文化が開花した。パルコ、ミニシアターといった場やコギャルにガングロの風俗。渋谷に来るといつも迷う記者が渋谷を歩き、とんがった若者文化の行方を探る。

